

JA全農WEEKLY

2面

在香港総領事館大使が全農表敬訪問 3月に香港現地事務所開設へ、輸出拡大で意見交換

4面

初の「和牛甲子園」総合Vに飛騨高山高(岐阜)



第1回「和牛甲子園」で総合部門最優秀賞に輝いた飛騨高山高校(4面)



JA全農WCBF少年野球教室25年を記念し長澤豊会長(左)から山形県伝統工芸品の笹野一刀彫を受け取った王貞治理事長(右)(2面)



全農を表敬訪問した在香港日本国総領事館の松田邦紀大使(左)を歓迎する長澤豊会長(右)(2面)

- 2 ニュース&トピックス(輸出対策部、広報部)
- 3 ニュース&トピックス(生産資材部、神奈川県本部)
- 5 インフォメーション(耕種総合対策部)
- 6 JAズームイン(JAいなば)
- 7 青果情勢(園芸部)
- 8 コミュニケーション(広報部、総合企画部、JAタウン)

コラボ商品第9弾2品発売



商品の詳細は8面に掲載



News!



在香港日本国総領事館の松田大使が表敬訪問

3月に香港現地事務所を開設予定、輸出拡大に向け意見交換

輸出対策部

在香港日本国総領事館大使兼総領事の松田邦紀氏が1月29日、全農を表敬訪問し、長澤豊会長はじめ役員と、香港への輸出拡大に向け意見交換しました。

長澤会長は、昨年10～11月に在香港日本国総領事館が現地を開いた「日本秋祭in香港」に合わせて、松田大使を訪問しており、それ以来の会談。松田大使からは、昨年の日本秋祭が43万人以上を動員するなど盛況であったことが報告され、今年は今秋が参加することへの期待が示されました。

また、長澤会長から、全農



松田大使(右)と香港向けの輸出拡大に向け意見交換する長澤会長ら

が今年3月に香港に現地事務所(現地法人)を開設する予定であることを紹介したところ、松田大使は、「香港の輸入業者・小売業者からすれば、全農は、47都道府県のがあがほしいと言ったら、いっぺんに相談できるのが魅力。その全農が香港に事務所を設けることへの期待は大きい。全農の取り組みに総領事館もバックアップしたい」と語りました。長澤会長は「現地事務所の開設を契機に、スピードを上げて、輸出拡大に取り組んでいきたい」と意気込みを語りました。

香港は、日本の農林水産物・食品の最大の輸出先で年間1853億円(平成28年)に上りますが、JAグループからの輸出は35億円程度(29年度見通し)で、全農としては、50億円の達成に向けて取り組んでいきます。

News!



少年野球教室開催25年に感謝状・記念品贈呈

王貞治WCBF理事長が全農を表敬訪問

広報部

一般財団法人世界少年野球推進財団(WCBF)の王貞治理事長が1月25日、全農を訪れ、長澤豊会長、大澤憲一副会長、菅野幸雄副会長らと懇談しました。全農が平成5年から特別協賛し25年を迎えた「JA全農WCBF少年野球教室」を記念し、長澤会長から王理事長に感謝状と記念品として山形県の伝統工芸品である笹野一刀彫を贈呈しました。

王理事長は「25年目となり、ご支援には大変感謝しております。本教室では、野球により、子どもたちの健康、技術だけではなく、礼儀や思いやりなど精神面の育成を進めてきました。また、食事をサポートする保護者に向けた栄養学教室や、チームの指導者を対象にしたケガ予防の講習なども実施しており、非常に良い活動で



JA全農を表敬訪問した王理事長(右から2人目)

あると感じております。本教室を通して子どもたちの夢や健全な成長を応援すべく、JA全農とともにこの活動を進めていきたいです」と述べました。

平成29年度は徳島県、新潟県、山口県、宮崎県、愛知県、山梨県の6カ所で少年野球教室を開き、王理事長は山口、山梨両県の教室に参加し、自らバッティング指導などを行いました。平成30年度も全国6カ所で開催を予定しています。

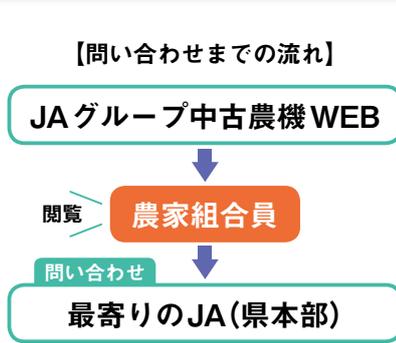


JA全農WCBF少年野球教室25年を記念し長澤会長(右)から山形県伝統工芸品の笹野一刀彫を受け取った王理事長

JAグループ中古農機WEBの運用開始

農家組合員が中古農機情報を閲覧し申し込み

生産資材部



【WEB画面】



閲覧の仕組みは、JAの中古農業機械査定士が査定した中古農機をWEB上

に掲載します。購入希望の農家組合員は最寄りのJA(福島、栃木は県本部)に申し込みます。申し込みを受けたJA(県本部)は、実機を確認のうえ、組合員と相談しながら整備を行います。中古農機は一つ一つ状態が異なることから、最寄りのJAが相談の窓口となることにより農家組合員は安心して中古農機を購入入することができます。

生産資材部は昨年12月から、農家組合員がJAグループの中古農機情報を直接閲覧できる「JAグループ中古農機WEB」の運用を開始しました。これは生産資材コスト低減の取り組みの一つとして、4県本部(福島、茨城、栃木、群馬)が合同で開設したWEBサイトです。現在は試行的な運用のため、販売対象は福島、茨城、栃木、群馬の農家組合員だけとしています。

現在は4県だけの試行的な運用ですが、生産資材コストの低減に向けて順次拡大を検討していきます。

「JAグループ中古農機WEB」はこちらから



鳥獣害対策研修会で電気柵設置学ぶ

千葉県本部がイノシシ被害多い地域の取り組み紹介

神奈川県本部



電気柵の設置方法を学ぶJA職員

神奈川県本部生産資材課は「農家に新たな獣害対策を提案するため、他県と連携し情報収集に努めていく」と話しています。

県内ではイノシシ、シカ、猿、ハクビシンなどによる被害が増えています。農家数減少による里山の荒廃、耕作放棄地の増加、捕獲者減少による個体数の増加などが要因と考えられ、現状では電気柵設置による自衛が主な対策になっています。

参加者は電気柵の設置方法を実習し、設置後は防衛効果の持続のため、バッテリーのチェックや電気柵周辺の除草など、定期的な管理が重要だと学びました。

また、千葉県本部営農支援課の川口重則専任課長が、イノシシによる被害が特に多い地域の取り組み事例を紹介。電気柵設置促進策で農家による自衛力を高め、捕獲力強化のためJA職員による狩猟免許取得と捕獲技術向上を促進し、行政と連携しながら地域ぐるみで獣害を増やさない環境整備を進めていると話しました。

神奈川県本部は1月17日、平塚市の全農営農・技術センターで「鳥獣害対策研修会」を開き、県内6JAから13人が参加しました。



初の「和牛甲子園」を開催

飛騨高山高(岐阜)が初代V、肉質最優秀は鹿屋農高(鹿児島)

畜産総合対策部は1月18、19日の両日、東京・芝浦の東京食肉市場で第1回全国農業高等学校和牛枝肉共励会「和牛甲子園」を開きました。将来の担い手候補である全国の高校生牛児たちが、肥育した和牛の肉質と日頃の取り組み内容を競い合いました。

【畜産総合対策部】

和牛甲子園は、①将来の担い手候補である高校生の就農意欲を高め②同じ志を持つ生徒のネットワークを創出して意欲と技術の向上を図り

③生産から販売をサポートするJAグループへの理解情勢を図る、という三つを狙いとして開催しました。高校牛児No.1を選ぶ審査は、肉質評価に加え、高校生の日頃の取り組み内容を加味した総合評価スタイルで行いました。和牛甲子園はこれに加えて、ワークショップ形式の学習会、枝肉勉強会、せり見学、食肉流通のプロによる講演会、同世代交流の学校交流会という多彩なメニューで、全2日間にわたり行われました。

この大会は、平成26年度の新規事業企画として採用された「牛入魂！和牛甲子園！！」（栃木県本部・高久克寿職員提案）を元に具体化の検討を進め、教育機関や東京都などの協力を得て、約3年の準備期間を経て開催にこぎつきました。

3年前の新規事業企画 関係者の協力得て開催

上. 総合部門最優秀賞に輝いた飛騨高山高校
下. 取り組みを発表する飛騨高山高校



総合評価

最優秀賞 岐阜県立飛騨高山高等学校

肉質評価

最優秀賞 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

優秀賞 岩手県立水沢農業高等学校
岐阜県立飛騨高山高等学校
岐阜県立加茂農林高等学校

優良賞 栃木県立矢板高等学校
岐阜県立飛騨高山高等学校
島根県立出雲農林高等学校
鹿児島県立鹿屋農業高等学校

全国から15校、53名参加 高い技術に驚きの声

第1回となる今大会には、全国8県15校から高校生53名と黒毛和

牛21頭が集合しました。10分間の持ち時間で競った体験発表会では、各校から高い技術レベルの創意工夫あふれる取り組みが報告され、審査員を驚かせました。

また、出品牛の肉質評価では、21頭中19頭が4等級以上に格付けされ、プロに負けない高い技術力を示すとともに、東京市場に全国から集まる目の肥えた買参人から高い評価を得ることができました。

審査の結果、総合評価部門の最優秀賞の栄冠を掴んだのは岐阜県立飛騨高山高等学校となりました。高い肉質に加え、卵巣摘出などによる特徴的な雌牛肥育の取り組みが評価されました。同校は、昨年9月に開催された全国和牛能力共進会宮城大会の高校生の部でも最優秀賞を獲得しており、2冠達成となりました。また、肉質評価部門の最優秀賞には鹿児島県立鹿屋農業高等学校が選ばれました。

本大会は「生徒の目標になる」「他に例のない取り組み」と学校関係者の評価も高く、来年度以降も継続開催する予定です。



肉質部門最優秀賞の鹿屋農業高校の枝肉



JA YOUTH

全青協が米国で新任役員研修 米国最大の農業団体・AFBF年次総会を視察

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は1月6日から8日間、米国で「農協運動におけるリーダー育成のためのJA青年組織新任役員研修」を行いました。飯野芳彦会長を団長に役員・単組メンバー12人と、事務局（全

国連4連）が参加し、米国最大の農業団体であるファームビューロー連盟（AFBF）の第99回年次総会（ナッシュビル）、（株）全農グレイン（ニューオリンズ）、CSA農場（ロサンゼルス近郊）を視察しました。【耕種総合対策部】

ポリシーブックの 改正討議じっくりと

年次総会では、ポリシーブックの改正討議を重点的に視察しました。ポリシーブックは、団体としての政策に対する賛否および政策提言をまとめたものです。改正が必要な項目は、現場意見を州単位で積み上げ、修正案（例えば、不法移民の就労への対応）として提出します。修正案は会場モニターに映し、代議員による討議を経て、電子投票で決定する流れとなります。ボトムアップの成立プロセスは参考となりました。改定後はロビー活動やSNSなど対外発信にも活用します。組織としての強い意

志、結束力を強く感じました。

AFBF青年委員との意見交換会では、青年部活動や共通課題（食の安全・安心、食育活動、新規就農者育成、労働力不足など）を中心に議論しました。若手育成にはディスカッションや討論大会を通じて必要な知識・スキルを高める実践プロ

グラムがあり、参考となりました。翌日の討論大会決勝（テーマ：新規就農者の育成）に進んだ4人のディスカッション能力の高さはその育成力を証明するものでした。

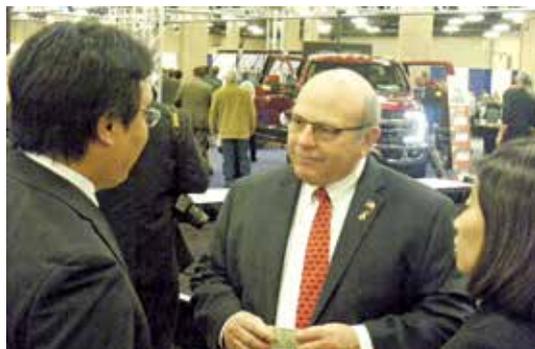
（株）全農グレイン視察では、飼料の安定供給機能について再認識しました。最終日は、参加者からJA



JAグループの課題解決策をテーマにグループ討議

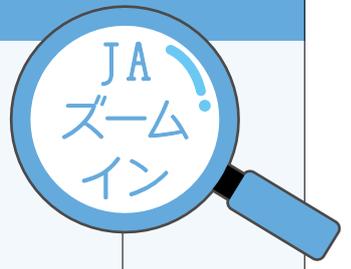
Aグループの課題解決策について発表があり、①JA自己改革への危機意識②新規就農者には農業マイスター制度の創設③後継者育成には作目別の助言体制④農業・産地の魅力発信に

AFBFのデューバル会長と懇談する飯野JA全青協会長



よる食農教育強化⑤農商工連携による労働力確保……などの意見が上がりました。解団式で飯野会長は「ポリシーブックでは単組からの積み上げの重要性を再認識した。JA自己改革は産地をどう育成・発展させるかが問われる。学んだ事を地元盟友に伝え、ポリシーブックや産地形成の草の根運動につなげたい」と総括し、実りのある有意義な研修となりました。

新任役員研修に参加した皆さんとAFBF青年委員



ハトムギ生産日本一

加工施設設け商品開発

富山県小矢部市と高岡市福岡町をエリアとするJAいなばは、水稻を主体とした農産物の他、水田フル活用に向けた実需者ニーズに沿った作物に着目し産地育成を進めています。

健康志向の高まり反映し10年前からハトムギ栽培

JA管内は、農地の担い

手集積率が8割以上で、機械の大型化が進んでいる地域です。その利点を生かせる特産物を育成できないか、試行錯誤を重ね、健康志向の高まりを反映した農産物としてハトムギを10年前から栽培しています。当初70㍎の試験栽培から始めた面積も平成29年産では260㍎と大幅に伸び、

作付面積・生産量とも全国一となりました。新たな農産物を振興するに当たり、大豆関連機械を活用できないか、連作障害を回避できないか、湿地帯でも作れるのか、麦跡圃場も活用できないかなど、農業者の悩みの声を改善・反映した産地育成に取り組み、機械の大型化が進む地域に沿った農産物として飛躍的に面積が拡大しています。

ご飯に混ぜるハトムギ精白粒が特に好評

ハトムギは漢方では「ヨクイ」と呼ばれ、滋養強壮や新陳代謝の促進、老廃物の排せつ、肥満防止の働きがあり、また、美肌や美白、イボ取り効果もあると言わ

JAいなば(富山県)



概要	平成29年2月28日現在
正組合員数	7067人
准組合員数	2105人
職員数	259人
販売品取扱高	36億9千万円
購買品取扱高	39億8千万円
貯金残高	947億2千万円
長期共済保有高	3154億2千万円
主な農畜産物	水稻、大豆、大麦、ハトムギ

れており、女性には喜ばれる効果が期待できます。JAでは、はとむぎ茶、うどん、クッキー、アイスなどの食品の他、化粧品用のハトムギスキンケアオイルも商品化しています。特にハトムギ粒をご飯に混ぜることで「ヨクイニン」(肌荒れ対策やイボ改善)の効果が期待できる、ハトムギ精白粒が好評です。



ごはんに入れて摂取できる「ハトムギ精白粒」

また、自ら加工を行うため精白加工施設を設置し、魅力ある農産物加工商品の

開発に取り組み、ハトムギ玄穀販売の他、殻を取り除いた渋皮付き粒や精白など実需者に応じた流通・販路拡大を目指しています。ハトムギ原料(殻、子実、油、エキス)のすべてを利活用した商品開発をこれからも進めていきます。



すっきりとした飲みやすさが好評の「はとむぎ茶」



美肌・美白に効くと名高い「ハトムギスキンケアオイル」



汎用コンバインでハトムギを収穫

[青果情勢]

(園芸部)



野菜

春野菜の入荷が徐々に開始

概況

2月も先月に引き続き、パレイシヨ・タマネギを除き、西南暖地・中京・関東産地を中心として出荷されます。

キャベツは、愛知・千葉・神奈川などが中心の出荷となります。根張りが弱く小玉傾向の圃場ほじょうがあり、後半からは春作の増量が見込まれますが、総体の出荷量は前年をやや下回る見込みです。

ハクサイは、茨城などが中心の出荷となります。低温等の影響で肥大は遅延傾向。出荷の前倒しと小玉傾向であることから、出荷量は前年を下回る見込みです。

レタスは、静岡・兵庫・香川・茨城などが中心の出荷となります。低温・干ばつの影響で小玉傾向の産地がありますが、中旬にかけて平年並みの生育に回復する見込み。出荷量は、前年並みを見込みます。

ダイコンは、千葉・神奈川などが中心の出荷となります。露地物は低温・干ばつの影響で小玉傾向。関東産の露地物は平年より切り上がり早い見込みで、後続のトンネルものの生育も遅延傾向。出荷量は、前年を下回る見込みです。

ニンジンニンジンは、千葉・埼玉などが中心の出荷となります。10月の天候不順、台風被害、低温・干ばつの影響で、小玉傾向。関東産の出荷は終盤となります。出荷量は、前年をやや下回る見込みです。

トマトは、熊本・愛知などが中心の出荷となります。出荷量は、前年並みを見込みます。

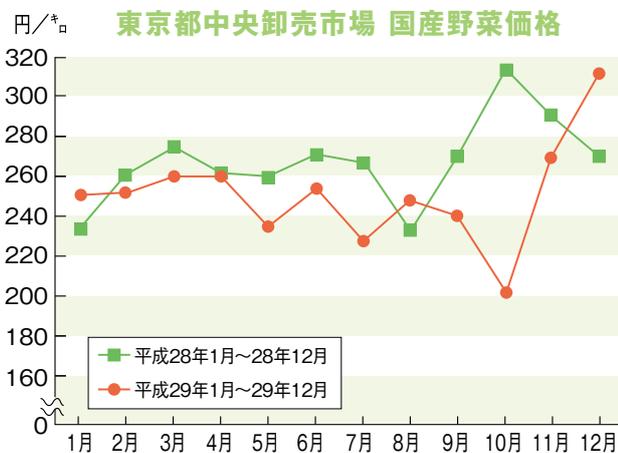
キュウリ・ナスは、西南暖地が中心の出荷となります。出荷量は前年並みを見込みます。

パレイシヨパレイシヨは、北海道・鹿児島などが中心の出荷となります。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

タマネギは、北海道に加え静岡からの出荷があります。出荷量は前年並みを見込みます。

店頭

寒い日が続き、銅商材が店頭に並びますが、徐々に春らしい明るい色彩の野菜が増えてきます。タラの菜、フキノトウ、山ウドなどの山菜類や、ナバナ、ソラマメやグリーンピース、新タマネギが陳列されるようになります。色合いの野菜が店頭をにぎわすようになります。



果実

イチゴ・かんきつ類・リンゴなどが中心

概況

2月の果実はイチゴ・かんきつ類・リンゴなどが中心の品目展開となります。

ミカンは、静岡・長崎などが中心の出荷となります。年内より出荷量が少ない状態が続いており、2月も前年を下回る出荷量となる見通しです。

伊予カン伊予カンは、愛媛が中心の出荷となります。品質もよく、前年をやや上回る出荷量となる見通しです。

不知火不知火は、熊本・愛媛が中心の出荷となります。2月に入ってから露地物の出荷も始まります。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

キンカンキンカンは、宮崎・鹿児島などが中心の出荷となります。前進出荷傾向であった前年より出荷ペースは遅れていますが、おおむね前年並みの出荷量を見込みます。

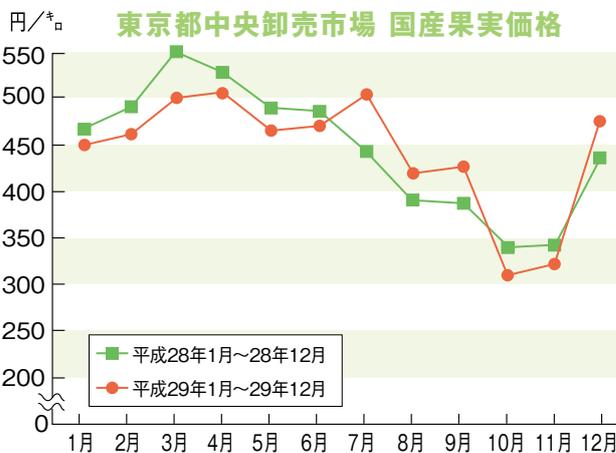
リンゴは、青森の貯蔵物の出回りとなります。出荷量は、前年を下回る見込みです。

イチゴは、栃木・福岡・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。1月の寒波の影響により生育はやや遅れ気味ですが、各産地とも2月には出荷量が増加し、中旬からピークとなる見込みです。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

キウイフルーツは、福岡・和歌山・愛媛などが中心の出荷となります。肥大もよく、前年をやや上回る出荷量となる見込みです。

店頭

節分・バレンタインなどの催事に合わせた販促企画が設定されます。また、受験シーズンを迎え、風邪予防対策として、果実の提案が活発に行われるとともに、ひな祭りに向けた販促企画の準備を進める時期でもあります。



主産県
だより

1月は、イチゴ、レタス、トマト・ミニトマト、ブロッコリーの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的で開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

サッポロ一番×全農 カップスター コラボレーション企画商品第9弾2品を発売!

JA全農は、サンヨー食品株式会社とのコラボレーション企画第9弾「サッポロ一番×全農 カップスター」2品を企画開発しました。
【総合企画部】

鹿児島県産のブランド鶏「鹿児島いいとこ鶏」のつみれが入ったしょうゆラーメンと、北海道産ジャガイモを使用したみそラーメンは、いずれも冬にぴったり。2月13日から全国で発売します。

JAタウンは はこちらから

新芋! 干しいも(紅はるか) 約1.2*_g(約300_g×4袋)……4499円

お待たせしました! JA全農いばらき「ぶりけんショップ」で毎年好評の「石塚さん家の干しいも(紅はるか)」の新芋が入荷しました。

「石塚さん家の干しいも」は、独自の完熟法と厚切で、1枚1枚「天日干し」にこだわり、丁寧に仕上げています。

品種は「紅はるか」。繊維質が少なく滑らかな舌触りで、非常に柔らかく、かめばかむほど口の中に甘みが広がり、これまでの干しいものイメージを一新するほどの食味です。

新芋を干し上げた、おいしい干しいもをぜひお試しください。

なお、ご紹介した商品は、2/23(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。商品代金以外の費用はかかりません。

JA全農のインターネット ショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com> ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。